

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

国立民族学博物館研究報告 vol.1-3; 表紙,目次ほか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立民族学博物館 , National Museum of Ethnology 公開日: 2010-02-16 キーワード: 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009268

1976・9 1.3号

国立民族学博物館 研究報告



論文

中部ジャワ農村の儀礼的食物交換——スラカルタ地方の事例より—— 関本照夫

東部パイワン族の家族と親族

——*ta-djaran* (1つの路) の概念を中心として—— 松澤員子

ドゥル族の季節観と農作業暦—— 端 信行

中央アンデス Middle Horizon の成立について—— 藤井龍彦



資料・研究ノート

トバ・バタック族の親族呼称について—— 吉田集而

島根半島一漁村の親類—— 大胡 修

交通手段——イリアン・ジャヤ中央高地の物質文化(2)—— 石毛直道



国立民族学博物館

大阪府 吹田市 千里 万国博記念公園 〒565 TEL 06-877-5341

国立民族学博物館研究報告

1 卷 3 号

1976年9月

目 次

論 文

- 中部ジャワ農村の儀礼的食物交換
——スラカルタ地方の事例より—— ……………関 本 照 夫…… 457
- 東部パイワン族の家族と親族
——*ta-djaran* (1つの路) の概念を中心として—— ……………松 澤 員 子…… 505
- ドゥル族の季節観と農作業暦……………端 信 行…… 537
- 中央アンデス Middle Horizon の成立について……………藤 井 龍 彦…… 565

資料・研究ノート

- トバ・バタック族の親族呼称について……………吉 田 集 而…… 592
- 島根半島一漁村の親類……………大 胡 修…… 604
- 交通手段
——イリアン・ジャヤ中央高地の物質文化(2)—— ……………石 毛 直 道…… 618

調査研究活動報告

- アメリカ合衆国の自然史博物館……………宮 本 繁 雄…… 637
- ヨーロッパ諸国の博物館視察(2)……………大 給 近 達…… 657
- 韓国の民俗音楽調査から
——研究教育機関等の訪問を中心に——……………櫻 井 哲 男…… 660

彙 報…………… 667

- 国立民族学博物館研究報告寄稿要項…………… 669
- 国立民族学博物館研究報告執筆要領…………… 670

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 1 No. 3

September 1976

SEKIMOTO, Teruo	Rituals of Food Exchange in Rural Central Java	457
MATSUZAWA, Kazuko	The Native Concept of <i>Ta-djaran</i> (one road) —A Study of Family and Kinship among the Eastern Paiwan of Formosa—.....	505
HATA, Nobuyuki	The Native Concept of Seasonal Cycle (months) and Agricultural Calendar of the Dourou Society in North Cameroon	537
FUJII, Tatsuhiko	On the Formation of the Middle Horizon in the Central Andes	565
YOSHIDA, Shuji	Terms of Address of the Toba Batak	592
OHGO, Osamu	Note on Kinship Organization of a Fishing Village in Shimane	604
ISHIGE, Naomichi	Means of Transportation in the Central Highland, Irian Jaya	618
MIYAMOTO, Shigeo	Museums of Natural History Visited in the United States.....	637
OGYU, Chikasato	Visiting European Museums (2).....	657
SAKURAI, Tetsuo	Ethnomusicological Research in Korea —Especially on the Visit to Educational and Research Institutions—	660

彙 報

(昭和51年5月～)
昭和51年6月)

運営協議員増員

昭和51年5月16日付で運営協議員が2名増員された。

石井米雄 京都大学教授(東南アジア研究センター)

蒲生正男 明治大学教授(政治経済学部)

客員研究部門担当教官

昭和51年度における国立民族学博物館客員研究部門担当教官は、下記のとおりである。

(6月1日現在)

第1研究部

教授 山田信夫(大阪大学文学部)

助教授 守屋 毅(愛媛大学教養部)

第2研究部

教授 石井米雄(京都大学東南アジア研究センター)

教授 中根千枝(東京大学東洋文化研究所)

助教授 青木 保(大阪大学人間科学部)

第3研究部

助教授 谷 泰(京都大学人文科学研究部)

助教授 長島信弘(一橋大学社会学部)

第4研究部

助教授 牛島 巖(筑波大学歴史・人類学系)

第5研究部

教授 木村重信(大阪大学文学部)

教授 長尾 真(京都大学工学部)

助教授 杉田繁治(京都大学工学部)

展示企画委員会専門委員の異動

1. 新任

昭和51年

5月1日 栗田靖之 大阪女子大学助教授(学芸学部)

杉田繁治 京都大学助教授(工学部)

6月1日 岡田 晋 映像評論家
後藤和彦 NHK 総合放送文化研究所主任研究員

6月16日 国井利泰 東京大学助教授(理学部)

2. 再任

昭和51年

5月1日 及川昭文 筑波大学講師(電子・情報工学系)

長尾 真 京都大学教授(工学部)

山本毅雄 東京大学助教授(大型計算機センター)

6月1日 栗津 潔 グラフィックデザイナー

館内各種委員会の増設

6月30日付で下記の委員会が増設された。

研究企画委員会(○印は委員長を示す)

○祖父江孝男, 竹村卓二, 佐々木高明, 杉本尚次, 伊藤幹治

館内合同研究会(旧共同研究会)

5月11日 国立民族学博物館研究報告1巻1号合評会

「ミへの儀礼」

黒田悦子

(コメント: 関本照夫)

「ルカイ族の焼畑農業」

佐々木高明, 深野康久

(コメント: 端 信行)

「シロフミ田下駄の諸系列」

中村俊亀智

(コメント: 杉本尚次)

5月25日 「ジャワ農村の儀礼的食物交換の形態分析」 関本照夫

「パイワン族の家族」

松澤員子

6月1日 「ドゥル族の季節観と農作業暦」 端 信行

「アイヌのキテ(回転式離頭鉞)の諸系列」 大塚和義

6月15日「物質文化研究の方法」
 中村俊亀智
 「物質文化研究の視点」
 大給近達

6月22日 「山村の生産と焼畑」
 佐々木高明
 「磯ねぎ（漁業）調査をめぐ
 って」 須藤健一

海外における研究・調査・収集活動

氏名	所属・官職	出発	帰国	行先
和田 祐一	(第3研究部教授)	51. 6. 7	51. 7. 18	フランス, オランダ, ドイツ連邦共和国, オーストリア, スペイン
江口一久	(第3研究部助教授)	51. 6. 12	51. 12. 30	フランス, カメルーン, ナイジェリア, ケニア

来館者記録抄

昭和51年

5月6日 松井 健 京都大学助手
 5月14日 加藤 秀俊 学習院大学教授
 5月19日 国井 利泰 東京大学助教授
 Johshi Pulasi DRWASA ネパール王立学士
 院会員
 5月25日 森下 精一 森下美術館長
 5月26日 小谷 凱宣 熊本大学助教授
 6月8日 小林高四郎 神奈川県立外語短期
 大学教授

6月15日 川田 順造 東京外国語大学助
 教授
 6月17日 Liparit S. KIUZADJAN
 ソ連科学アカデミ
 ー情報科学研究所
 副所長
 山田寿太郎 大阪市立大学助教
 授
 6月18日 原 忠彦 東京外国語大学助
 教授
 6月22日 荻野 和彦 京都大学講師

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文を1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、編集委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市山田小川23の17（日本万国博覧会記念公園）

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-877-5341）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目 1 字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図 1」、「表 1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

〔柳田，1942：pp. 67-69〕

〔LEACH, 1961：p. 123〕

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

〔柳田，1942a：pp. 20-22〕〔柳田，1942b：p.10〕

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

(1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。

(2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の論題は引用符でかこみ、雑誌名及び単行人名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合

Bohannon, P., 1973, "Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist",
Current Anthropology, Vol. 14-4, The University of Chicago Press.

石田英一郎, 1948, 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13巻 4号 関書店。

単行本の場合

Berlin, B. & P. Kay, 1969, Basic Color Terms : Their Universality and Evolution,
University of California Press.

柳田国男, 1942, 『日本の祭』弘文堂書房。

国立民族学博物館研究報告 1卷3号

編集委員

石 森 秀 三	関 本 照 夫
伊 藤 幹 治 (編集委員長)	松 原 正 毅
江 口 一 久	宮 本 勝
杉 本 尚 次	

編集事務協力

石 元 宏 迪

昭和51年10月20日印刷
昭和51年10月30日発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 1卷3号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市山田小川23-17
TEL 06 (877) 5341 (代表)

印刷 日本印刷出版株式会社
〒553 大阪市福島区吉野1-2-7
TEL 06 (441) 6594 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.1 no.3
September 1976

- | | |
|-------------------|---|
| SEKIMOTO, Teruo | Rituals of Food Exchange in Rural Central Java |
| MATSUZAWA, Kazuko | The Native Concept of <i>Ta-djaran</i> (one road)
—A Study of Family and Kinship among
the Eastern Paiwan of Formosa— |
| HATA, Nobuyuki | The Native Concept of Seasonal Cycle
(months) and Agricultural Calendar of the
Dourou Society in North Cameroon |
| FUJII, Tatsuhiko | On the Formation of the Middle Horizon
in the Central Andes |
| YOSHIDA, Shuji | Terms of Address of the Toba Batak |
| OHGO, Osamu | Note on Kinship Organization of a Fishing
Village in Shimane |
| ISHIGE, Naomichi | Means of Transportation in the Central
Highland, Irian Jaya |

ISSN 0385-180X



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
Phone 06-877-5341